

静岡市美術館

2010年5月

静岡市美術館、2010年5月1日開館

開館記念展10月より開催

5～9月までは講演会やワークショップ等を随時開催

文化商業施設が集まる静岡駅前に、店舗、レストラン、オフィスが入った静岡市一の高さを誇る「葵タワー」が2010年4月1日にオープンしました。その葵タワーの3階に静岡市立の美術館として新しく静岡市美術館が開館します。

基本理念は「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」です。

基本方針

- ・しずおかの歴史や風土、伝統的文化を継承しながら、新しい「しずおか文化」を創造し、世界に向けて発信します。
- ・美術を主軸にデザインや工芸等、幅広いジャンルの展覧会をバランスよく実施します。
- ・街にひらかれた「芸術文化の交流拠点」を目指します。
- ・子どもからお年寄りまで、みんなが集う、“いきいきした美術館”を目指します。

活動の柱は、年間を通じた企画展事業です。展示室は広さ約1,100㎡、天井高4.1～4.5mと十分な広さを持ち、国宝や重要文化財等、国指定文化財も展示できるよう設計されています。美術を主軸にデザインや工芸等、幅広いジャンルの展覧会をバランスよく実施します。

また、エントランスホールや多目的室、ワークショップ室を「交流ゾーン」と位置づけ、同時代のアートシーンの紹介や、コンサート、講演会、ワークショップ等、様々な交流ゾーン事業を実施します。初めて美術館に訪れる方から熱心な美術ファンまで、また美術館の将来を担う子ども達からお年寄りまで、誰もが気軽に立ち寄れる“ちょっと面白い、街の中の広場”としての都市型美術館をめざします。開館時間は午前10時から午後7時までです。仕事帰りや買い物ついでにもご覧頂けます。

5月1日から交流ゾーンのみ先行開館し、講演会やワークショップ、映画上映など、様々な交流ゾーン事業を展開します。展示室については、作品展示のため空気環境を十分に整え、10月より展覧会を開催します。

開館記念展<Ⅰ>「ポーラ美術館コレクション展—印象派とエコール・ド・パリ」

開館記念展<Ⅱ>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展

開館記念展<Ⅲ>「棟方志功 祈りと旅」展

どうぞご期待下さい。

館長挨拶

静岡市の芸術文化の拠点施設として、静岡市美術館が、5月1日開館します。作品展示の環境を十二分に整えるため、開館記念の特別展スタートは10月まで待っていただくこととなりますが、9月までは、「交流ゾーン」と位置づけたエントランスホールや多目的室を使って、コンサートやトークイベント、美術館探検ツアーなどを開催していきます。

新しい美術館は、静岡の歴史、風土、伝統的文化を踏まえながら、しずおか地域はもちろん国内外との交流、連携を目指すという「しずおか文化」の創造、発信を基本理念にしています。この理念をわかりやすくビジュアル化できたらと、ロゴマークのデザインを気鋭のデザイナーでありアートディレクターの柿木原政広さんにお願ひしました。静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフに、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージを表現しており、親しみの持てるロゴマークになったと思います。

また、新美術館は、JR静岡駅前に建設された「葵タワー」内に位置します。東海道線、新幹線の静岡駅から雨にぬれずに行けるといふ、全国的にもあまり例がない「便利な」美術館です。そのロケーションやアクセスのメリットを生かした都市型美術館として、特定の美術のジャンルにとらわれない、幅広い企画展やイベントを、年間を通して開催していく予定です。今後の静岡市美術館の活動にどうか、ご注目していただき、大いにご来場いただくことを願っております。

静岡市美術館
館長 田中豊稲



[略歴]

田中 豊稲(たなか とよね)

1953(昭和28)年1月14日、大阪市生まれ(本籍:京都府)
大阪大学文学部美学科(日本・東洋美術史学専攻)卒

1979年 毎日新聞社入社
大阪本社学芸部長、東京本社事業本部次長兼企画事業部長などを歴任

2008年 毎日新聞社早期退職

〃 和歌山放送入社
役員待遇総務局長、専務取締役などを歴任

2010年1月 和歌山放送を退任

2010年5月 静岡市美術館 館長

施設概要

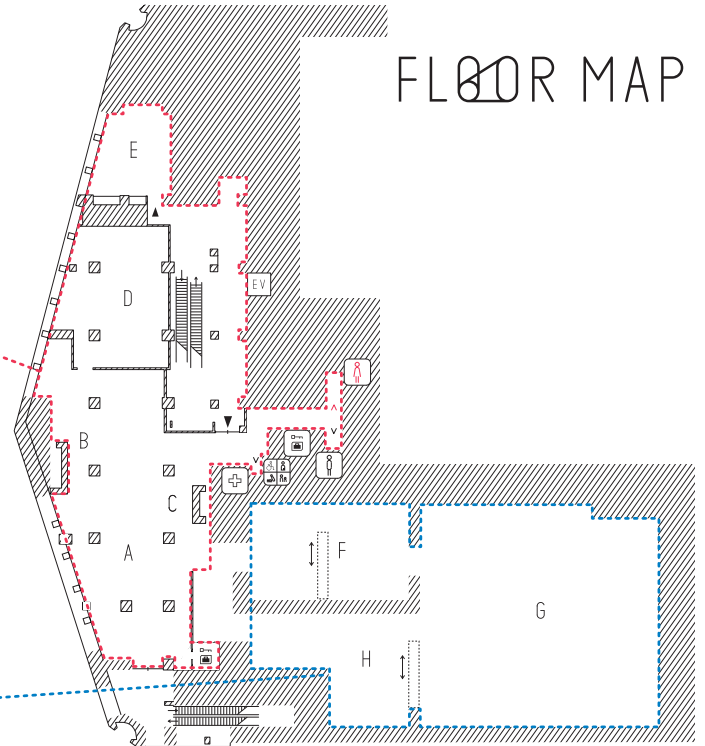
交流ゾーン

- A エントランスホール
- B カフェ・ミュージアムショップ
- C インフォメーション
- D 多目的室
- E ワークショップ室

展示室

- F 展示室 1
- G 展示室 2
- H 展示室 3

FLOOR MAP



交流ゾーン



エントランスホール

■ エントランスホール (A)

天井高6mの広々としたエントランスは、交流ゾーンの中心で、誰もが気軽に行き交える空間です。昼間はやわらかな光が差し込み、夜は光の柱が人々を迎えます。

■ 多目的室 (D)

小企画展示から講演会、映画上映までさまざまなイベントを行います。収容人数約120人。ガラス壁により、エントランスの広々とした空間と一体化しています。

■ カフェ・ミュージアムショップ (B)

美術関連書籍、図録、ポストカード、静岡市美術館オリジナルグッズなどを販売します。併設のカフェスペースでは、最新の美術雑誌などを片手に、ゆっくりとした時間がすごせます。(2010年7月より開店予定)

■ ワークショップ室 (E)

流し場などを備えた、色々なワークショップに対応できるスペースです。子どもから大人まで幅広く楽しめるプログラムを実施します。

展示室



■展示室(F・G・H)

天井高4.1～4.5m、約1,100㎡のホワイトキューブを基本とした展示室には、総長60mのウォールケースも設置され、国宝や重要文化財等、国指定文化財の展示も可能な設計がなされています。

展示室

美術館延床面積 3,393.22㎡

■展示室

・面積 約1,100㎡

展示室1 209.76㎡

展示室2 713.03㎡

展示室3 204.17㎡

・天井高 4.1～4.5m

・総壁面長 290m(可動壁含む)

・床荷重 500kg/㎡

・ウォールケース 壁面にエアータイト型ガラスケース総長60mを設置

■エントランスホール 612㎡ 天井高6m

■多目的室 180㎡ 天井高5m

■ワークショップ室 92㎡ 天井高3m



葵タワー外観

施設案内

名 称	静岡市美術館 (英語表記) Shizuoka City Museum of Art
住 所	〒420-0852 静岡県静岡市葵区紺屋町17-1葵タワー3階
電 話 番 号	054-273-1515(代表)
F A X	054-273-1518
開 館 時 間	10:00～19:00(展示室入場は閉館30分前まで)
休 館 日	月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)、年末年始
観 覧 料	展覧会により異なる。交流ゾーン、ショップ利用は無料。
ホームページ	http://www.shizubi.jp
ア ク セ ス	○電車

JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分

○新幹線

東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間

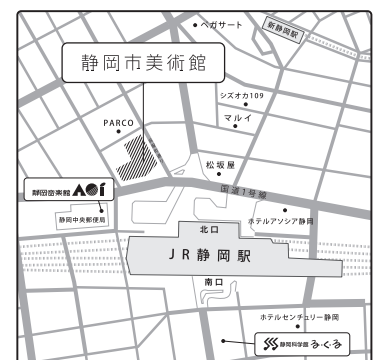
○車

東名静岡ICより約15分

※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。

○空路

富士山静岡空港より静鉄バス(静岡エアポートライナー)で約1時間



静岡市美術館のロゴマーク

[ロゴマーク]



[ロゴタイプ]

静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

美術館のロゴマーク、ロゴタイプが決まりました。

ロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表わされています。また、視点と奥行きの変化によって見え方が変わる“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。

デザインは、大手企業から身近な保育園のブランディングまで、幅広く活躍中のアートディレクター・柿木原政広氏が手掛けました。このロゴマークとともに、静岡市美術館が多くの方に親しんで頂けることを願っています。

室名オリジナルフォント

展示準備室	事務室	学芸員室
女子更衣室	休憩室	応接室
女子トイレ	収蔵庫	給湯室
男子トイレ	会議室	印刷室
男子更衣室	荷解室	美術館搬入口

静岡は、気候も人も、なんだか穏やかな気がします。そんな場に新しくできる美術館のシンボルマークやサインは、親しみやすくいろんな人の気持ちが積もっていくものであることが大切ではないか、と考えました。

最初にイメージしたのは、様々な人がつながる場としての円の重なりです。美術館という円は、まず、静岡の人が暮らす「地域」という円と重ならなくてはなりません。人と人を繋ぐ場として美術館が機能すること。子供たちがワークショップに集ったり、アートボランティアの活動の拠点となったり。市の美術館として重要な使命です。そしてさらに、美術館という円は、もっと広い「世界」という円ともつながります。国内外を通じて価値ある作品を見だし、展示し、発信し続けることで、「地域」と「世界」が「美術館」を通じてつながっていくのではないか、と思うのです。

そして、富士山！静岡の人は、富士山を見上げるだけでなく、富士山から自分たちの住んでいる町を見下ろす、ということがイメージしやすい贅沢な環境のなかに暮らしているのではないか、と思いました。いろんな視点から、いろんな物事を新鮮な目で見つめること。美術館という場は、そうした様々な視点に気づかせてくれたり、教えてくれたりする場でもあります。

富士山にも見えたり、コップにも見えたりするようなロゴマークは、上から見下ろしているようにも、下から見上げているようにも見えます。「あれっ？これってこういうふうにも見えるんじゃないか」という多様な視点を、多くの人が発見できる場になれば、という思いをこめました。

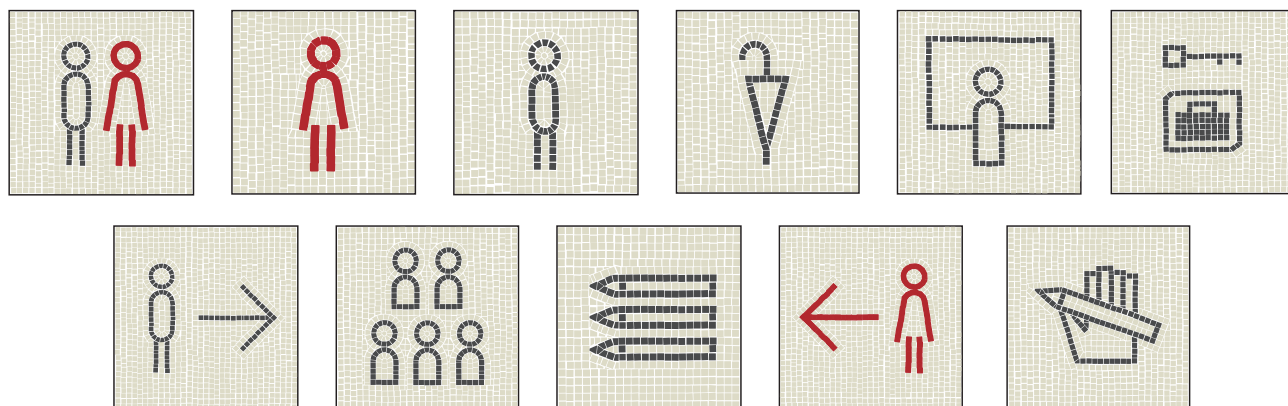
こうして言葉にすることは、実は簡単です。理想論ではなく、具体的にアイデアを磨き、実行する。このシンボルマークが、そのためのなんらかの助けになってくれれば幸せです。

アートディレクター
柿木原 政広



柿木原政広(かきのきはら・まさひろ)アートディレクター。1970年広島県生まれ。デザイン広告会社ドラフトを経て2007年8月に株式会社10<テン>(www.10inc.jp)を設立。主な代表作にsingingAEON、まいにちAEON CARD、映画「トニー滝谷」「パトリスルコントのドゴラ」のアートディレクション、富士中央幼稚園のCI、美術館の展覧会ポスターなど。著作に『グラフィックデザインの入口』、福音館の絵本『とまとさんのあかいふく』。最近の仕事では東京国際映画祭のメインビジュアルとトロフィー、NHK「子どもサポートネット」のアートディレクション、松竹芸能株式会社のCI、カードゲームRocca(www.rocca-game.jp)などを手がける。2003年日本グラフィックデザイナーズ協会新人賞受賞。2007年森美術館の「日本美術が笑う」でADC賞受賞。

館内の案内サインは市民の手によって制作されました。



美術館の中に設置されている案内サインは、一般公募で選ばれた市民の皆さん約80人が、柿木原氏のデザインをもとにモザイクタイルで制作しました。

市民に開かれた美術館でありたいという願いが“かたち”になったイベントです。



<参加者からの声>

- ・子どもとの一生の思い出に残るイベントでした。子連れで美術館に行くのは敷居が高かったのですが、静岡市美術館には愛を感じそうです。
- ・ぼくの通学路に美術館ができるので、記念になるものが残ってよかった。
- ・静岡市美術館に行く楽しみの一部にできたらいいな、と思って参加しました。
- ・自分が作ったものが、実際に美術館に飾られることなど滅多にない機会で、感激。
- ・大きくなって美術館に来て、また自分が作った作品が見られるから作ってよかった。

実施概要

「親子でつくろう！静岡市美術館の案内サインワークショップ」

実施日：2010年3月13日(土)・14日(日)

※2日間連続のプログラム。

午前コース(9:00~12:00)

午後コース(14:00~17:00)

講師：柿木原政広(アートディレクター)
加地菜津(NATSUKO)

(モザイクタイルクラフト作家)

対象：小学生以上の親子など

参加者：午前コース41人 午後コース37人

主催：静岡市

企画・制作：(財)静岡市文化振興財団

静岡市美術館開館記念展〈I〉

「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」



クロード・モネ《睡蓮》1907年 ポーラ美術館蔵

2010年10月2日(土)～11月28日(日)

* 休館日／毎週月曜日、ただし10月11日(月・祝)は開館、翌12日(火)は休館、11月22日(月)は臨時開館

一般 1,200円(1,000円)

大高生・静岡市内70歳以上 800円(600円)

* ()内は前売および20名以上の団体料金

中学生以下無料

* 障害者手帳等をご持参の方および介助者1名は無料

2002年9月、箱根仙石原に開館したポーラ美術館は、印象派を中心とした西洋絵画と、日本の洋画や日本画、さらにアール・ヌーヴォーを中心としたガラス工芸、化粧道具、東洋陶磁など所蔵品総数約9500点におよぶ日本最大級のコレクションを誇ります。

これは、静岡市発祥の企業であるポーラ・オルビスグループの2代目オーナー鈴木常司が40数年にわたり収集したものです。常司がコレクターとしての人生を歩むきっかけとなったレオナルド・フジタ(藤田嗣治)と荻須高德の作品を購入したのも、また静岡市という地でした。

なかでも西洋絵画は、印象派からポスト印象派、エコール・ド・パリの画家たちの絵画、20世紀絵画に至るまで、体系的に収集されており、美術史を語るうえで重要な時代や作家の作品を網羅しています。

本展ではその珠玉のコレクションの中から、印象派からエコール・ド・パリの作家まで、人気の高い巨匠たちの作品を一堂に紹介いたします。モネの《睡蓮》、セザンヌの《プロヴァンスの風景》をはじめ、ゴッホ、ピカソ、レオナルド・フジタ、シャガールなどコレクションを代表する作品74点が展示される予定です。

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会(いずれも申請予定)

企画制作：TBS 企画協力：テモアン

監修：木島俊介(美術評論家)、荒屋鋪透(財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館 館長)

静岡市美術館開館記念展〈Ⅱ〉

N H K 静岡放送局開局80周年記念

「家康と慶喜—徳川家と静岡」展



左：《東照大権現像（霊夢）》（部分）、徳川記念財団蔵
右：川村清雄《徳川慶喜像》徳川記念財団蔵

2010年12月11日（土）
～2011年1月30日（日）

前期：2010年12月11日（土）～2011年1月10日（月・祝）

後期：2011年1月12日（水）～1月30日（日）

* 休館日／毎週月曜日、年末年始12月30日（木）～1月1日（土）は休館、
ただし12月28日（火）、29日（水）、1月2日（日）～4日（火）は臨時開館、10日（月・祝）開館、翌11日（火）は休館

一般 1,200円（1,000円）

大高生・静岡市内70歳以上 800円（600円）

中学生以下無料

*（ ）内は前売および20名以上の団体料金

* 障害者手帳等をご持参の方および介助者1名は無料

徳川記念財団（徳川宗家）の優品を中心に、家康と慶喜という今なお静岡市民に尊敬される二人の偉人を、美術作品によって顕彰し、ひとつの展覧会に構成する静岡ならではの展覧会です。

第1章「家康」では、戦国武将としての事績を合戦図屏風や武具でたどります。特に駿府大御所時代に焦点をあて、茶のコーナーを特設するなど、多様な家康の業績を紹介します。また東照大権現像、霊夢像など様々な家康の姿をご覧いただけます。

第2章「慶喜」では事績をたどりつつ、慶喜自ら筆をとった油彩画、書、日本画、撮影した写真を紹介します。「家達と静岡誕生」では、十五代将軍慶喜と徳川宗家十六代家達（初代静岡藩知事）の関係、家達と川村清雄、小林清親など幕臣画家との交流、及びその作品を展示します。

市内の寺社に伝来した知られざる名品や、日頃親しく見る機会のない国指定の重要文化財など約200点が一堂に会するまたとない機会です。

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（財）静岡市文化振興財団、NHK静岡放送局、NHKプラネット中部
後援：文化庁、静岡市教育委員会、静岡県教育委員会（いずれも申請予定）
特別協力：財団法人徳川記念財団
制作協力：NHKプロモーション

静岡市美術館開館記念展〈Ⅲ〉

「棟方志功 祈りと旅」展



《二菩薩釈迦十大弟子》1939/48年、六曲一双（左隻）、棟方板画美術館蔵

2011年2月11日（金・祝）～3月27日（日）

* 休館日／毎週月曜日、ただし3月21日（月・祝）は開館、翌22日（火）は休館

一般 1,000円(800円)

大高生・静岡市内70歳以上 600円(400円)

* ()内は前売および20名以上の団体料金

中学生以下無料

* 障害者手帳等をご持参の方および介助者1名は無料

棟方志功は、「版画」を「板画（はんが）」と称し、従来の常識にとらわれない、奔放なエネルギーに満ちた大型の作を次々と発表した、日本を代表する木版画家です。戦前より評価を高め、1955年のサンパウロ・ビエンナーレ、1956年のヴェネツィア・ビエンナーレでは日本人初の版画部門最高賞を受賞し、1975年に72歳で天寿を全うするまで、旺盛な創作活動を続けました。

本展は、2010年が没後35周年にあたることを踏まえ、「祈りと旅」をテーマに、彼の幅広い芸業をご紹介する大規模な回顧展です。サンパウロとヴェネツィアで受賞した《二菩薩釈迦十大弟子》や、全長26mに及ぶ大作《大世界の柵》を始めとした代表作を網羅するとともに、文学や女性を主題にした作品や、当市出身の工芸家・芹沢銈介ともゆかりの深い、民藝運動との関わりを示した作品をご紹介します。

また、現代版「東海道五十三次」として制作した《東海道棟方板画》のうち、地元静岡を描いた作品を展示します。後の《西海道棟方板画》等一連の「海道シリーズ」と合わせて、「世界のムナカタ」が表現する日本の原風景をお楽しみいただけます。

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（財）静岡市文化振興財団、朝日新聞社、静岡朝日テレビ（予定）
後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会（いずれも申請予定）
協力：（財）棟方板画館、（株）安川電機
監修：棟方板画美術館

5月の交流ゾーン事業

SBSラジオ公開録音第1弾 静岡市美術館開館記念トークイベント

「美術館をデザインすること」

館長の田中豊稲と、美術館のロゴマークを制作した柿木原政広氏(アートディレクター)、鈴木康広氏(アーティスト)による開館記念トークイベント。“デザイン”をキーワードに新しい美術館の姿を探ります。

日時:2010年5月2日(日)12:30~14:00

パネリスト:田中豊稲(静岡市美術館館長)

柿木原政広(アートディレクター)

鈴木康広(アーティスト)

司会:松永直子(SBSアナウンサー)

会場:静岡市美術館 多目的室・エントランスホール

定員:150人(参加無料、当日直接会場へお越しください)

「美術館探検ツアー」

「静岡市美術館探検マップ」を使って、スタッフのガイドのもと館内を巡ります。

日時:2010年5月1日(土)~9日(日)11:00~、14:00~ 各回30分程度

※5月1日は14:00~の回のみ実施。

当日インフォメーション前にお集まり下さい。(参加無料)

5月1日(土)14:00~、2日(日)11:00~のみ

特別ゲスト:柿木原政広氏

ワークショップシリーズ Vol.1

「鈴木康広 まばたきの葉」

鈴木康広(1979年浜松市生まれ)は、2001年以降、活動の場や表現の手法にとらわれない新作を次々と発表し、注目を集める気鋭のアーティストです。皆さんが描いた“まばたきの葉”が、美術館のエントランスホールに舞い上がります。

会期中どなたでも、いつでも参加できます。

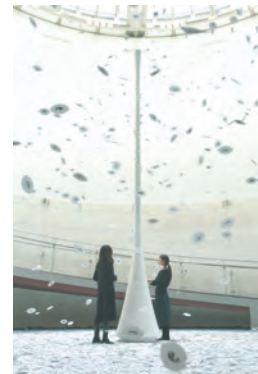
日時:2010年5月2日(日)~6月13日(日)

場所:静岡市美術館 エントランスホール

※5月2日(日)10:00~12:00は、作家が滞在します。

5月15日(土)、6月13日(日)作家によるワークショップを開催予定。

まばたきの葉 Blinking Leaves 2003
Photo: Katsuhiro Ichikawa
Courtesy of SPIRAL/Wacoal Art Center



開館記念展<II>「家康と慶喜-徳川家と静岡」展イベント

講演会①「静岡学問所と葵文庫~徳川藩教育の遺産」

日時:5月9日(日)13:30~15:00

講師:石田徳行(財団法人静岡市文化振興財団理事長)

会場:静岡市美術館 多目的室

定員:120人(参加無料、当日直接会場へお越しください)

今後の交流ゾーン事業スケジュール(予定)

6 月

開館記念展<Ⅰ>「ポーラ美術館コレクション展-印象派とエコール・ド・パリ」プレイベント
「ポーラ美術館コレクション展」レクチャー①

印象派やエコール・ド・パリの画家たちの作品について、様々な分野の研究者を招きお話を伺います。

映像作品上映

200インチのスクリーンのある多目的室を使って、美術映像作品の上映を行います。

開館記念展<Ⅱ>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展プレイベント

創作ワークショップ「金陀美具足に挑戦！ 等身大の鎧をつくろう」

徳川家康が19歳で武功をたてた時に着用していたといわれる「金陀美具足(きんだみぐそく)」(久能山東照宮博物館蔵)を手本に、段ボールとアルミホイルを使って、等身大の鎧をみんなで作ります。親子で、友達どうしで、お誘い合わせの上で参加ください。

※6月毎週日曜日(6日、13日、20日、27日)全4回

開館記念展<Ⅱ>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展プレイベント

「家康と慶喜」展講演会②

家康や慶喜とその時代について、静岡ゆかりの研究者を講師に講演会を開催します。

開館記念展<Ⅱ>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展プレイベント

ウォークツアー①「初夏の“府中(静岡)”探検！」(仮称)

本展出品作品に関連する市内の寺社を中心に、徳川家にゆかりある場所を歩くツアーです。静岡市美術館作成のオリジナルマップを使用します。

6-7月

ワークショップシリーズVol.2

「日詰明男 黄金比をめぐる冒険」(仮称)

DNAの構造や植物の葉のつき方など、生命や自然の造形の中に、様々な形であらわれる黄金比。この不思議な比率の研究者で造形作家の日詰明男(1960年生まれ。川根本町在住)さんと、みんなで“黄金比のカタチ”を作ります。ワークショップで出来上がった作品は、交流ゾーンで展示します。

7 月

開館記念展<Ⅰ>「ポーラ美術館コレクション展-印象派とエコール・ド・パリ」プレイベント
「ポーラ美術館コレクション展」レクチャー②

印象派やエコール・ド・パリの画家たちの作品について、様々な分野の研究者を招き、お話を伺います。

SBSラジオ公開録音 第2弾

多彩なゲストを迎え美術館でラジオの公開収録を行います。

開館記念展<Ⅱ>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展プレイベント

トーク&ミュージアムコンサート

徳川慶喜の足跡をたどりつつ、慶喜が撮影した静岡の写真をめぐって楽しいトークと音楽をお届けします。

開館記念展<Ⅱ>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展プレイベント

「家康と慶喜」展講演会③

家康や慶喜とその時代について、静岡ゆかりの研究者を講師に講演会を開催します。

※都合により内容を変更する場合があります。

美術館夏の連続トーク

「ミュージアム・トーク 夏の夕べ」(仮称)

一線で活躍する研究者を招いて、知的好奇心を刺激するトークを毎週末、シリーズで開催します。

カフェ・ミュージアムショップ オープン(予定)

エントランスホールの一角に、美術館オリジナルグッズや、一般には入手しにくい美術関連図書などの充実したカフェ&ショップがオープンします。

7-8月

ワークショップシリーズVol.3

「糸崎公朗 フォトモで作る静岡の街」(仮称)

街並みを写真に撮ってプリントを切り貼りし、お店の店先や道行く人まで立体的にリアルに再現した「フォトモ」(フォト+モデルの造語)。この「フォトモ」や「ツギラマ」(ツギハギ+パノラマの造語)で人気の写真家/美術家の糸崎公朗(1965年生まれ。東京都在住)さんと、みんなで静岡の町並みを“路上観察”して立体的に再現します。ワークショップで出来上がった作品は、交流ゾーンで展示します。

8 月

ピーター・バラカン トークシリーズ①

「音を見る。アートを聴く。」 8月8日(日)

ブロードキャスターとして活躍中のピーター・バラカン氏をモデレーターにトークを開催します。

開館記念展<II>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展イベント 夏休み! 創作ワークショップ

「金陀美具足に挑戦! —ミニチュアの鎧をつくろう」 全3回

徳川家康が着用したといわれる「金陀美具足(きんだみぐそく)」(久能山東照宮博物館蔵)を手本に、段ボールとアルミホイルを使って、鎧のミニチュアを作ります。夏休みの宿題はこれで決まり!

開館記念展<II>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展イベント

「家康と慶喜」展講演会④

家康や慶喜とその時代について、静岡ゆかりの研究者を講師に講演会を開催します。

美術館誕生記念コンサート

広く天井が高い美術館のエントランスホールで、記念コンサートを開催します。

「夜店市」関連イベント

美術館の位置する紺屋町商店街をはじめ、静岡市の中心商店街で毎年8月に開かれる恒例の「夜店市」。美術館でも“街中コンサート”など美術館と街をつなぐイベントを開催します。

9 月

SBSラジオ公開録音 第3弾

多彩なゲストを迎え美術館でラジオの公開収録を行います。

美術館 映画特集上映シリーズ①

「印象派の世界」

200インチのスクリーンのある多目的室を使って、普段見る機会の少ない美術館ならではの映画を特集して上映するシリーズ第1弾として、<開館記念展I>「ポーラ美術館コレクション」展にちなみ印象派やエコール・ド・パリに関連した映画を特集上映します。

開館記念展<II>「家康と慶喜—徳川家と静岡」展イベント

ウォークツアー②「秋の“府中(静岡)”探検!」(仮称)

本展出品作品に関連する市内の寺社を中心に、徳川家にゆかりある場所を歩くツアーです。静岡市美術館作成のオリジナルマップを使用します。

※都合により内容を変更する場合があります。

静岡市美術館 指定管理者 (財) 静岡市文化振興財団

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1葵タワー3F

TEL 054-273-1515(代表) FAX 054-273-1518

054-273-1516(総務課)

054-273-1517(学芸)